

宇都宮市中心市街地における良好な 親水空間の形成に関する調査研究

宇都宮市 市政研究センター(愛称:アスノミヤ研究所)

橋爪 孝介

1 はじめに

●研究背景

本市は古名「池辺郷」であったが、「水の都」という認識を持つ市民はほほいない

- ・河川改修 → 市民生活から分離，水面まで遠くなる
- ・R01 田川溢水 → 危険なイメージ

国の河川政策「多自然川づくり」（H18～），「かわまちづくり支援制度」（H21～）
「河川空間のオープン化」（H23～）

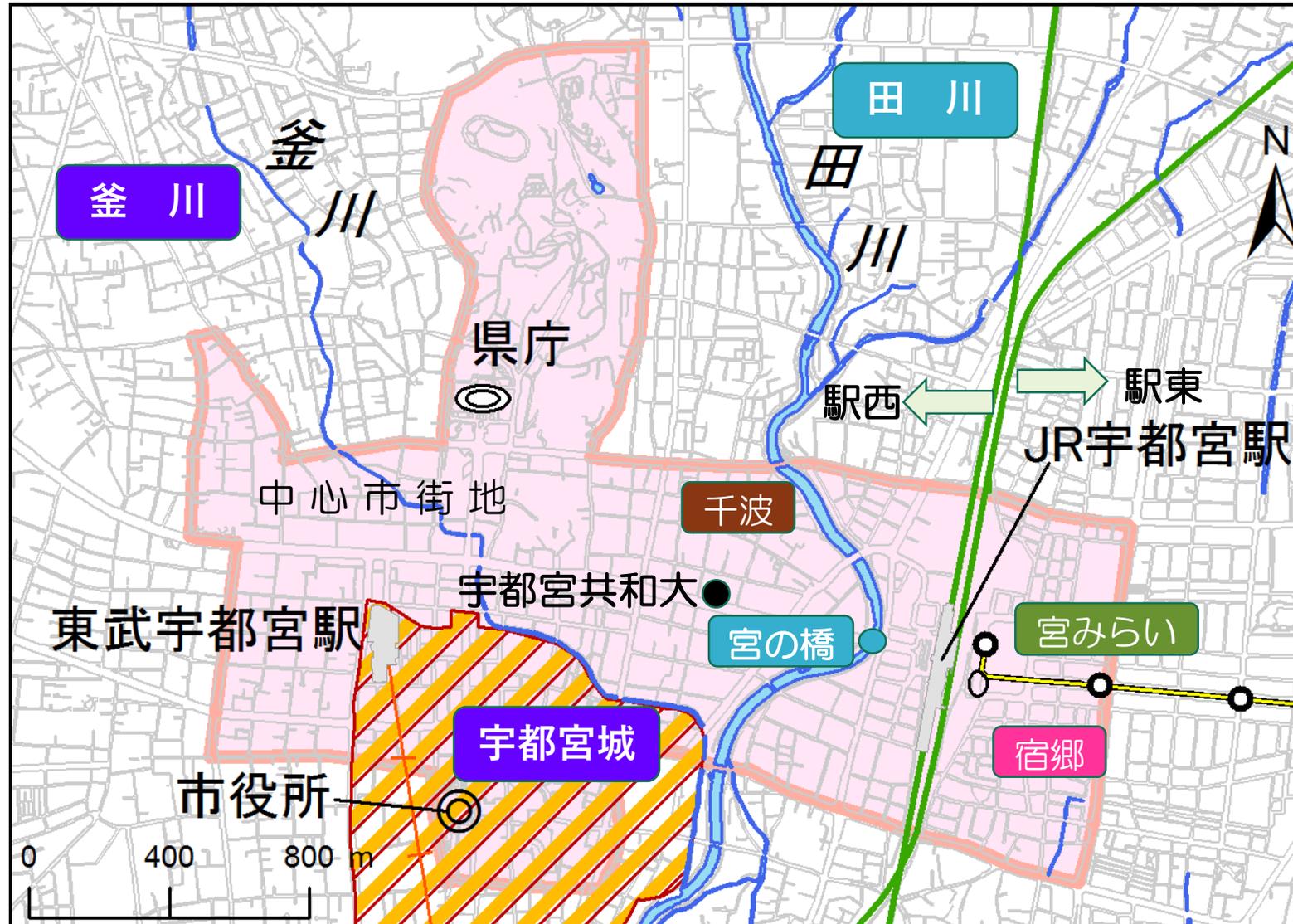
⇒ **水辺空間**（水のある空間）を市民の手に取り戻し，
親水空間（水が**身近に感じられる**空間）をめざす

●研究目的

親水空間の形成により，中心市街地の良好な景観づくりに寄与すること

※対市民が基本，長期的には来訪者（観光）へも訴求

1-1 宇都宮市中心市街地と水辺空間



1-2 本発表の構成（研究の手順）

章・節	内容	調査の手法
1章	はじめに（背景・目的・対象）	—
2章	1 親水に係る諸概念	文献調査
	2 親水空間の例（三島市・栃木市）	文献調査 + 実地踏査
3章	1 主要河川の現状（釜川・田川）	文献調査 + 実地踏査
	2 未活用の水辺空間の探索（小水路）	G I S + 実地踏査
4章	大学生の意識からみた親水空間の可能性	アンケート + 既存事業
5章	政策提案	—

2-1 親水に係る諸概念

● 「親水」とは？（山本・石井 1971）

- ・ **流水機能**（治水・利水）と並立する河川の機能
- ・ 人間の**心理**との関係においてとらえられる機能

※昭和45年に生まれた比較的新しい概念

● 「親水」を満たす 4つの条件と 考慮すべき 5つのキーワード（日本建築学会編 2023）

【4条件】 ①居心地 ②社交性・賑わい性 ③場の多様性 ④五感

【5つのキーワード】 ※水辺空間の特性に応じて選択

- ①複合的利用 ②主体の多様性 ③歴史性・地域性への配慮
- ④利害関係・市民要望 ⑤計画・デザインの工夫

● 治水と親水（田中 2024, 原・堀田 2025）

日常的な親水が防災意識を高める → 本来は治水と親水は対立するものではない

2-2 親水空間の事例（1）

【親水空間の事例】 日本建築学会編（2023）の78事例のうち2事例を深掘り（文献＋実地踏査）

三島市

市民活動による水辺空間の再生が観光客の来訪や商店街の活性化にまで波及

（渡辺ほか 2010, 日本建築学会編 2023, 山梨・轟 2024）



H15 三橋伸夫氏撮影



R04/08 報告者撮影



R07/02 報告者撮影

- ・ 夏 ⇒ 親子連れによる水遊び・散策を中心とした賑わい
- ・ 冬 ⇒ 個人的な写真撮影, 小休憩, 犬の散歩など

・ 実地踏査での気づき
まちなかに「お勧めコース」の表示

2-2 親水空間の事例（2）

【親水空間の事例】 日本建築学会編（2023）の78事例のうち2事例を深掘り（文献＋実地踏査）

栃木市

まちの発展を支えた川を起点として、「蔵の街」を観光地として発信

（日本建築学会編 2023，松村 2023）



すべて，R07/03 報告者撮影

- ・沿川の散策者（100人程度）はほぼ観光客
→ 遊覧船（都賀船）運航区間に集中
- ・乗船，写真撮影，コイのエサやり，散策など

・実地踏査での気づき
沿川に「立ち寄りスポット」が充実

3-1 主要河川の現状（1）

【市街地の主要河川の歴史と現状把握】 文献+実地踏査で把握

釜川

お城の堀から、氾濫の頻発を経て、「二層式河川」へ

（宇都宮市河川課編 1993，水島 2011，西村 2018，中川 2019）



S46 氾濫後（河川課編 1993）



R07/03 二層式に整備された川（報告者撮影）



- S60 日本初の**二層式河川**へ改修
（上段は**親水**，下段は**治水**）
- ・やや過剰気味のデザイン
 - ・愛護会等の清掃活動+若手による活性化活動

通過・滞在60人程度，1～3人のグループ

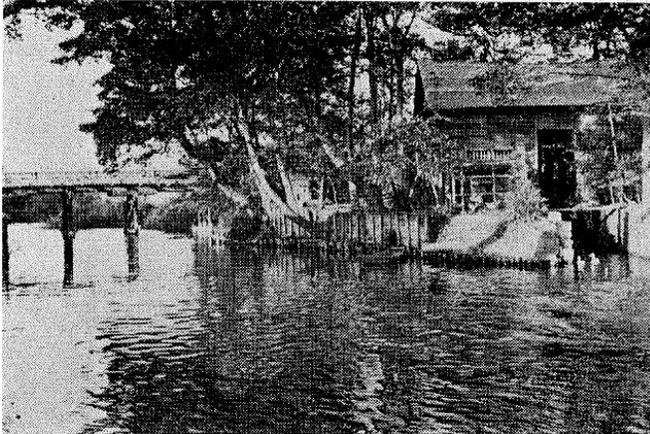
- ・通過者：他街区への通り抜けや店舗利用
- ・滞在者：スマホ操作，喫煙（15人程度）
⇒ **川を見ていない人が多い**

3-1 主要河川の現状（2）

【市街地の主要河川の歴史と現状把握】

田川 市民生活の場から、遠くて「危険な川」へ

（宇都宮市庶務課編 1960，徳田 1979，東地区まちづくり協議会編 2016）



S08頃 水車小屋（徳田 1979）



R07/03 歩行者のいない水辺（報告者撮影）



物資の荷上，水車，地場産業（宮染め），ボート
→ **S26の改修と平時の水面低下**で市民から遠ざかる
+ R01の**溢水**で危険なイメージが付与
・宮の橋・田川活性化プロジェクト（民間主体）

通過・滞在10人程度，ほぼ個人利用

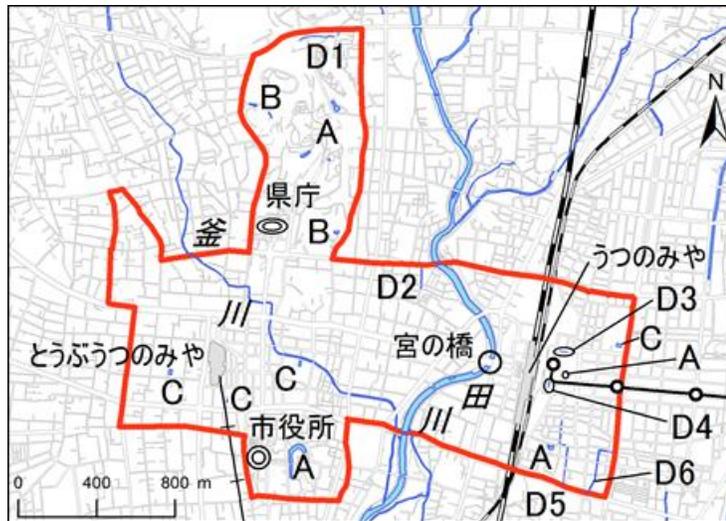
- ・通過者：散策・犬の散歩
 - ・滞在者：体操・写真撮影・居眠り・会話など
- ⇒ **川を見ている人が多い**

3-2 未活用の水辺空間の探索

●水辺空間の抽出

・GISで水辺を抽出

水面積率1.25% (市全体は1.50%)



- A: 公園の池・水盤
- B: 寺社の池
- C: プール
- D: 小水路

↓
Dの活用可能性
が高い

・接川形態 (山梨・轟 (2024) を参照)

道路と接する水面が43.0%

三島市 よりも親水しやすい環境

●未活用の小水路の現状

千波町

あさり
求喰川の跡, 大谷石の護岸



宮みらい

整備済の景観水路



4 大学生の意識からみた親水空間の可能性（1）

①宇都宮共和国大学の学生への都市河川の暗渠化に関する意識調査

（回答者：「地理学概論」受講学生26人）

・暗渠化に**反対** 17人（**65.4%**）

「**生態系**を崩す形になるし、**景観**も損なわれる」
「水流を見ると**ストレス軽減**などの効果がある」
「地域の**文化**や**歴史**に深く関わっている」

・暗渠化に**賛成** 7人（**26.9%**）

「**危険**要素があるなら取り除くべき」
「**衛生面**でも大きなメリットがある」

・**条件付き**で賛成 2人（**7.7%**）

「全てを暗渠化するのではなく、用途によって決めるべき」
「必要な時にフタができる機能を付ければどうか」



R07/03・釜川の暗渠化区間（報告者撮影）

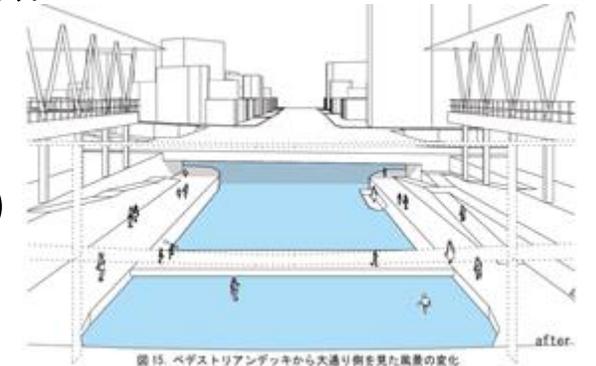
釜 川

4 大学生の意識からみた親水空間の可能性（2）

②当センター主催「大学生によるまちづくり提案」からみた親水意識

- ・ 過去20回の開催で12件の提案（うち田川が8件）
- ・ 提案内容の変遷
 - 【初期】 個別事業の1つ（主題は大谷石の活用，市街地の緑化）
 - 【中期】 **ハードの魅力**による水辺への市民等の誘導
 - 【後期】 学生自身のイベント試行に基づいた**ソフト中心**の提案
→ **河川利用への学生の関心**が高まっている

田川



・ 参考になりそうな提案

- 1) 宮の橋周辺へのスロープ等の設置
(複数団体から提案)
- 2) 石碑型のハザードマップの設置
- 3) 田川にぎわい協議会の設置



図4 清掃活動後の集合写真



図5 田川でバーベQ!の様子

5 政策提案（1）

●提案の前提となる公民の連携体制

- ・ハード整備は**公**が担い，ソフト（日常的な管理）は**民**が担う
 - ・親水空間の **条件①**（快適な眺め）， **条件④**（五感） は 公
 - ・ **条件②**（社交性・賑わい性）， **条件③**（場の多様性） は 民

⇒ 自分に近い， または興味のある分野から参加してもらう（田中 2024）

楽しみながら活動に参加

三島市

の市民活動を参考に

- ・ **親水の価値**をわかりやすく伝える工夫

- ・ 親水に価値を見出さない市民が一定数存在（福嶋・内田 2016）

⇒ 仮想評価法（CVM）を用いた価値の金額換算等

5 政策提案（2）

●主要河川に関する提案

釜川

田川

- ・民間組織による一時的な利用（**イベント**）から**個人の日常的な利用**へ
 - 1) 水辺に近づきやすくする工夫
 - ・誘導看板の設置，広報強化，既存団体の支援強化
 - 2) 訪れたいくなる水辺の工夫
 - ・沿川に「**象徴的な空間**」や「**目的地となる空間**」を創出

栃木市の例

象徴的な空間

市民に共通する巴波川のイメージ



目的地となる空間

立ち寄りたくなるカフェ，蔵，文化施設



5 政策提案 (3)

●小水路に関する提案

- ・ 既存の小水路を結ぶ親水空間めぐりのコース設定 **【既存のコースとの接続を検討】**

三島市 の「お勧めコース」を参考に

